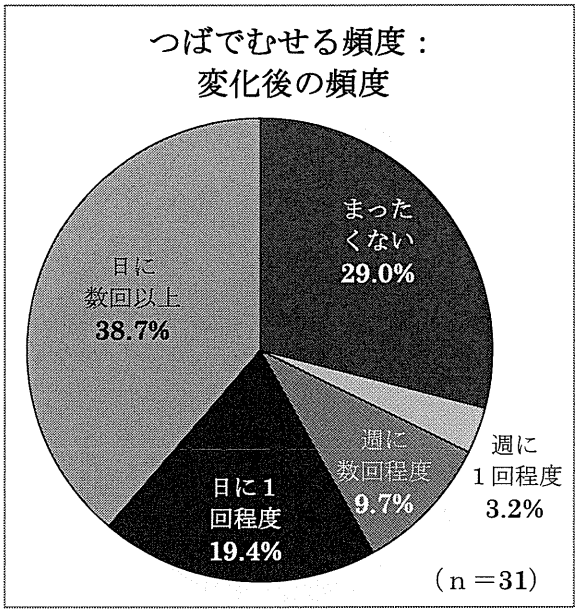
V．日常について

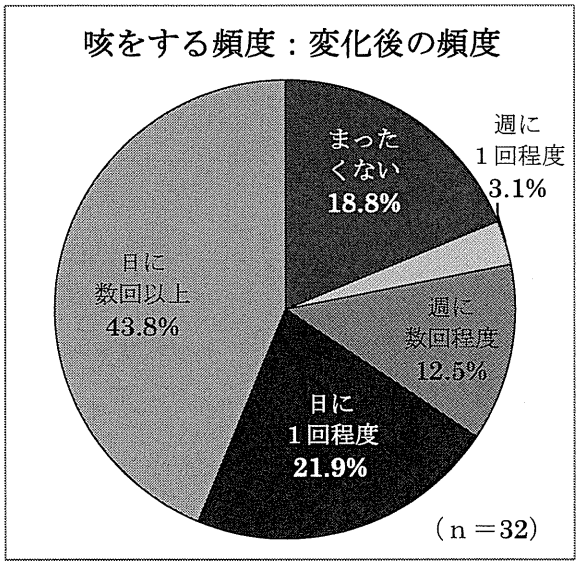
最近の変化として、９つの症状について質問した。

① つばでむせる程度



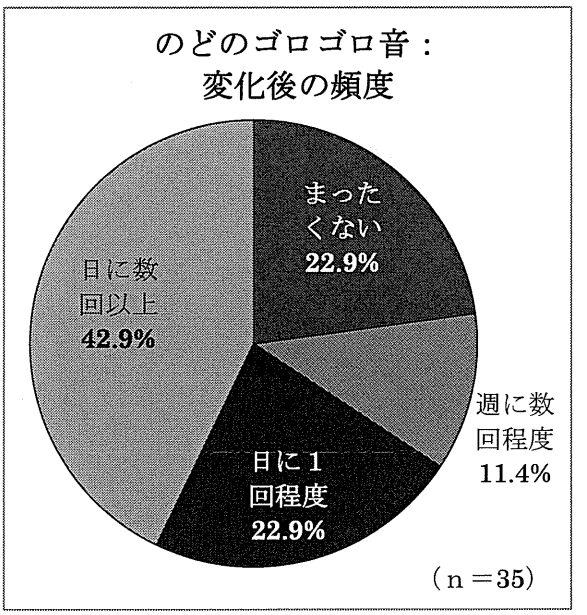
つばでむせる頻度は、まったくないが９名（29.0%）、週に１回程度が１名（3.2%）、週に数回程度が３名（9.7%）、日に１回程度が６名（19.4%）、日に数回以上が 12 名（38.7%）と最も多かった。無回答が 13 名みられた。

② 咳をする頻度



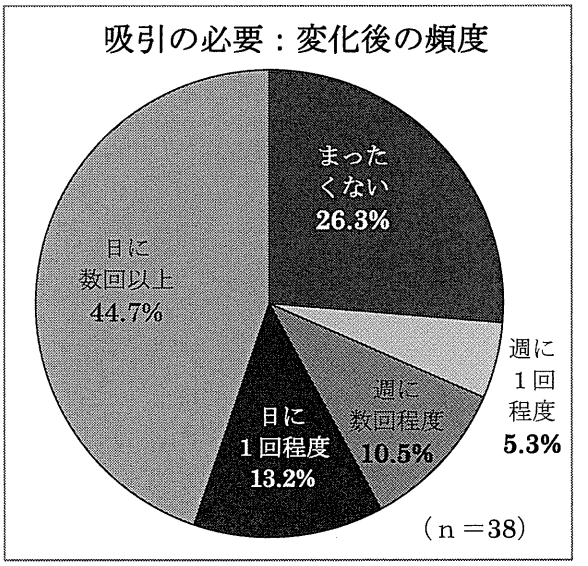
咳をする頻度は、まったくないが６名（18.8%）、週に１回程度が１名（3.1%）、週に数回程度が４名（12.5%）、日に１回程度が７名（21.9%）、日に数回以上が 14 名（43.8%）と最も多かった。無回答が 12 名みられた。

③ のどのゴロゴロ音



のどのゴロゴロ音は、まったくないが８名（22.9%）、週に数回程度が４名（11.4%）、日に１回程度が８名（22.9%）、日に数回以上が 15 名（42.9%）と最も多かった。週に１回程度はいなかった。無回答が９名みられた。

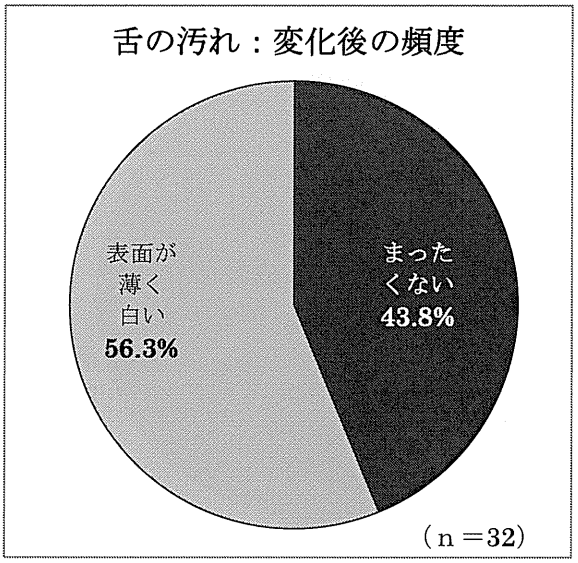
④ 吸引の必要（頻度）



吸引の必要（頻度）は、まったくないが 10 名（26.3%）、週に１回程度が２名（5.3%）、週に数回程度が４名（10.5%）、日に１回程度

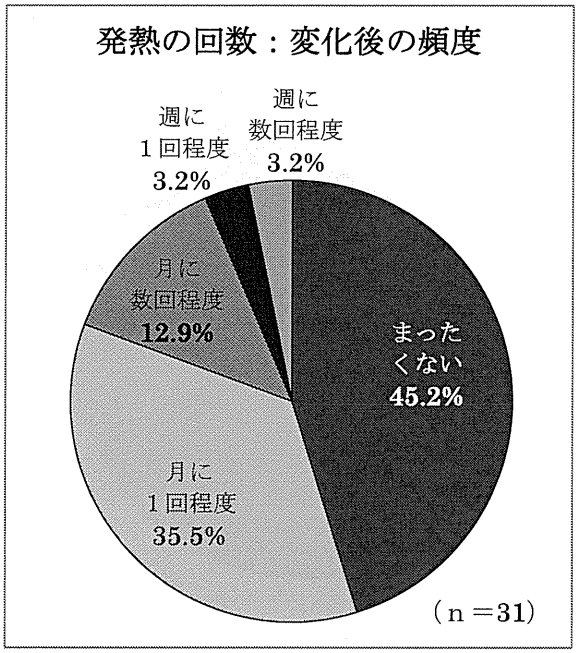
が５名（13.2％）、日に数回以上が 17 名（44.7％）と最も多かった。無回答が６名みられた。

⑤ 舌の汚れ



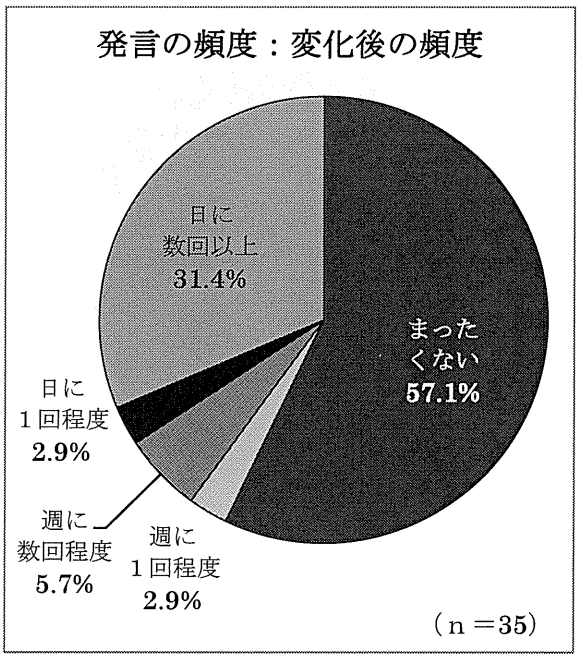
舌の汚れは、まったくないが 14 名（43.8％）、表面が薄く白いが 18 名（56.3％）と過半数を占めた。表面に厚い汚れがある者はいなかった。無回答が 12 名みられた。

⑥ 発熱頻度



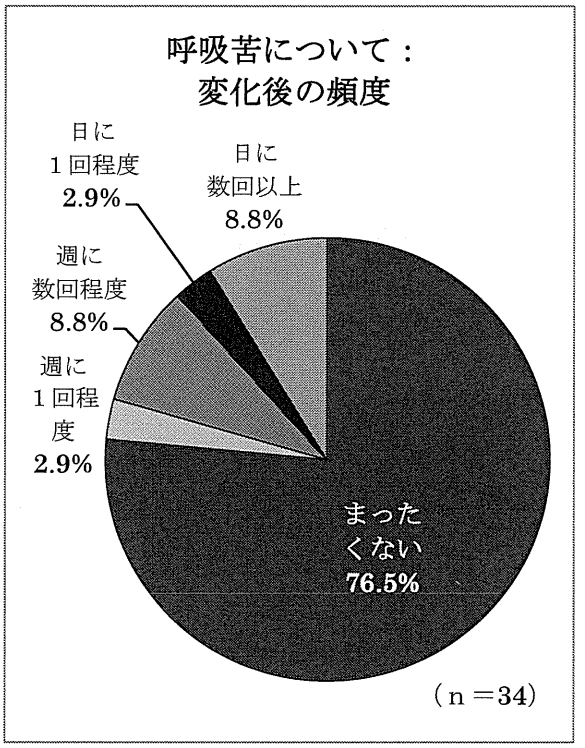
発熱頻度は、まったくないが 14 名（45.2％）で最も多いが、次いで月に１回程度が 11 名（35.5％）であった。月に数回程度が４名（12.9％）、週に１回程度と週に数回程度がそれぞれ１名（3.2％）であった。無回答が 13 名みられた。

⑦ 発言頻度



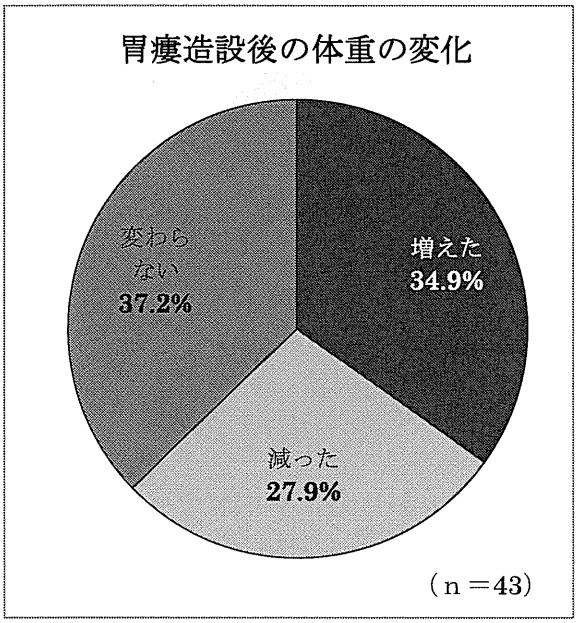
発言頻度は、まったくないが最も多く 20 名（57.1％）であった。週に１回程度が１名（2.9％）、週に数回程度が２名（5.7％）、日に１回程度が１名（2.9％）と少ないが、日に数回以上は 11 名（31.4％）と比較的多かった。無回答が９名みられた。

⑧ 呼吸苦



呼吸苦について、まったくないが 26 名（76.5%）と最も多く、週に1回程度が1名（2.9%）、週に数回程度が3名（8.8%）、日に1回程度が1名（2.9%）、日に数回以上が3名（8.8%）であった。無回答が 10 名みられた。

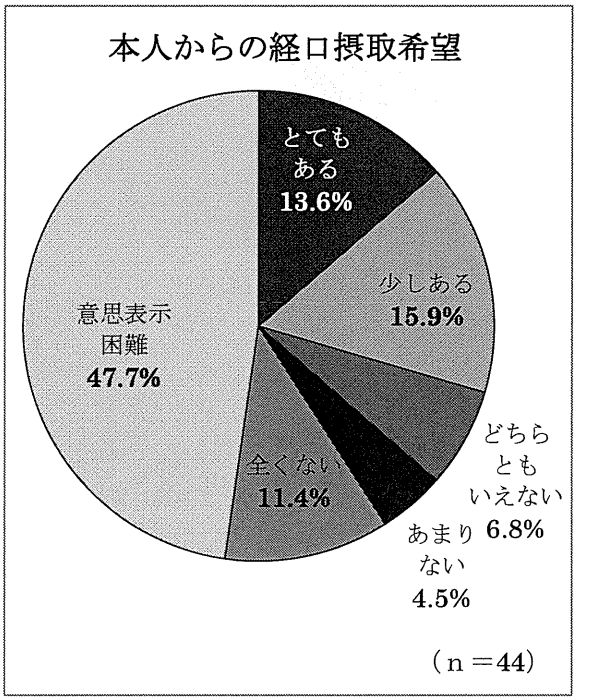
⑨ 胃瘻造設後の体重変化



胃瘻造設後の体重変化は、増えたが 15 名（34.9%）、減ったが 12 名（27.9%）、変わらないが 16 名（37.2%）であった。無回答が1名みられた。

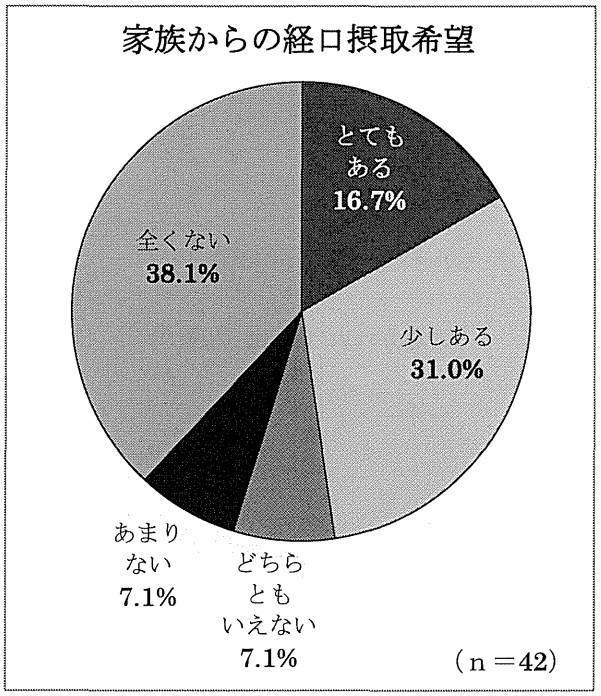
⑩ 経口摂取希望について

a．本人からの経口摂取希望



本人からの経口摂取希望は、とてもあるが6名（13.6%）、少しあるが7名（15.9%）、どちらともいえないが3名（6.8%）、あまりないが2名（4.5%）、まったくないが5名（11.4%）であった。意思表示困難が 21 名（47.7%）と半数みられた。

b．家族からの経口摂取希望

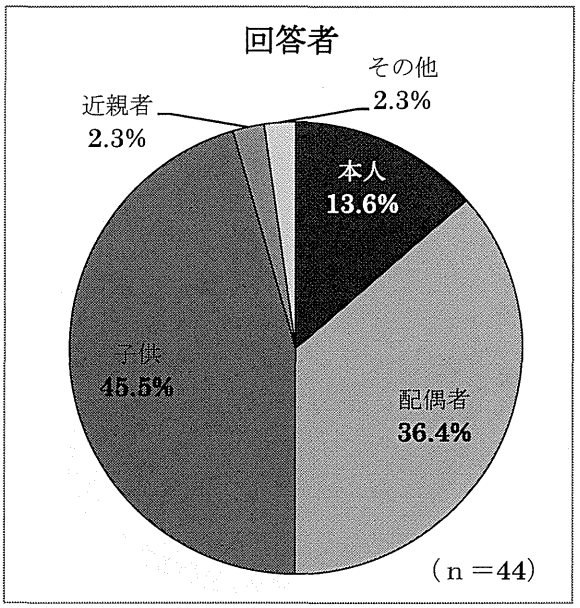


家族からの経口摂取希望は、とてもあるが7名（16.7%）、少しあるが13名（31.0%）、どちらともいえない、と、あまりない、がいずれもが3名（7.1%）、全くないがもっとも多く16名（38.1%）であった。無回答が2名みられた。

2．ご本人・家族用調査票単純集計

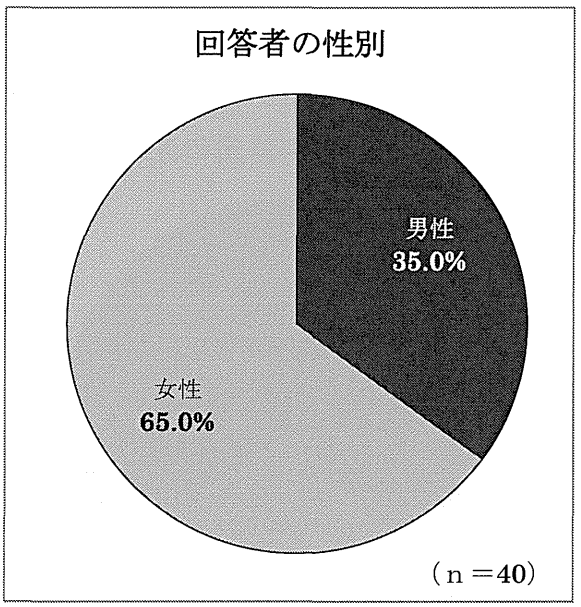
Ⅰ．回答者情報

a．対象者から見た回答者の続柄



対象者から見た回答者の続柄は、本人が6名（13.6%）、配偶者が16名（36.4%）、子どもが20名（45.5%）、近親者とその他がそれぞれ1名（2.3%）であった。子どもが最も多く、次いで配偶者であり、孫はいなかった。

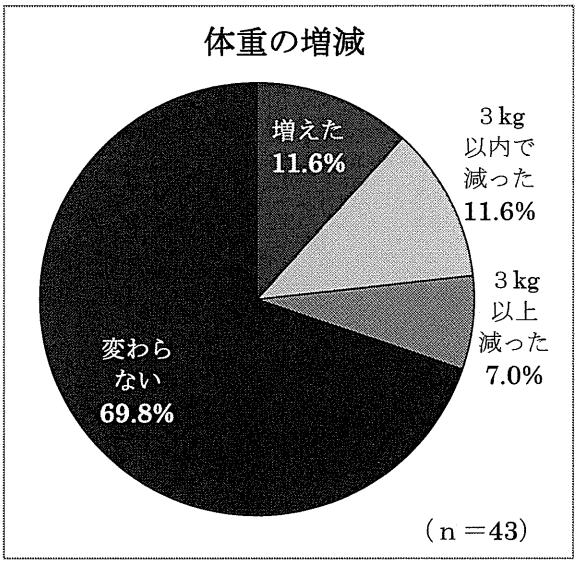
b．回答者の性別



回答者の性別は、男性が14名（35.0%）であり、一方女性が26名（65.0%）と多かった。無回答が4名みられた。

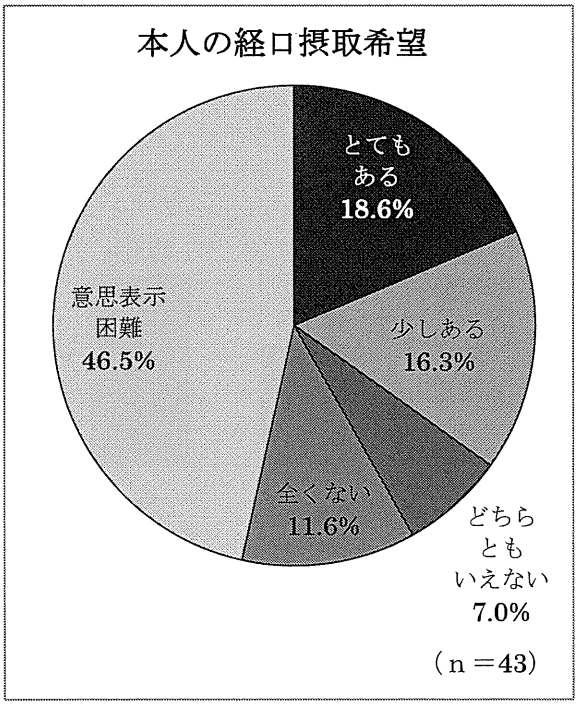
Ⅱ．現在の状況について

ａ．直近１ヶ月での体重の増減



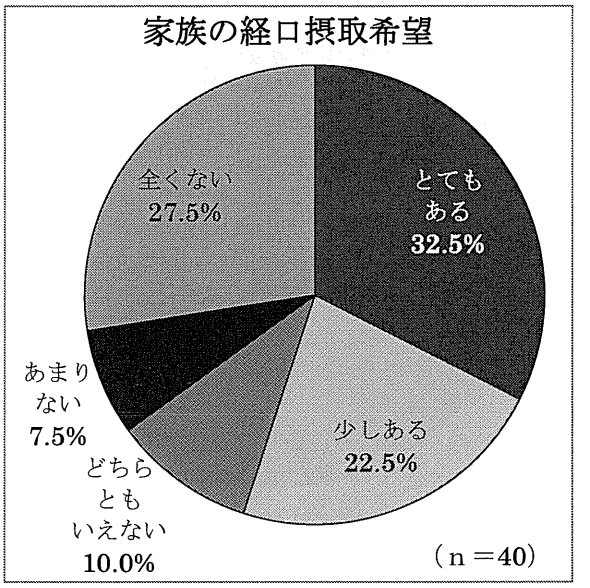
直近１ヶ月での体重の増減は、増えた、と、3kg 以内で減ったがいずれも５名（11.6%）、3kg 以上減ったが３名（7.0%）、変わらないが 30 名（69.8%）と最も多かった。無回答が１名みられた。

ｂ．本人からの経口摂取希望



本人からの経口摂取希望は、とてもあるが８名（18.6%）、少しあるが７名（16.3%）、どちらともいえないが３名（7.0%）、まったくないが５名（11.6%）であった。あまりない、はいなかった。意思表示困難が 20 名（46.5%）であった。無回答が１名みられた。

ｃ．家族からの経口摂取希望

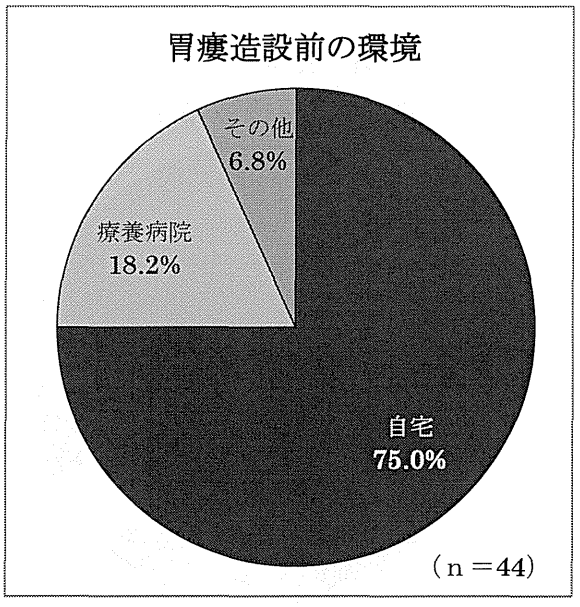


家族からの経口摂取希望は、とてもあるが 13 名（32.5%）と多く、少しあるが９名（22.5%）、どちらともいえないが４名（10.0%）、あまりないが３名（7.5%）であった。また、全くないも 11 名（27.5%）みられた。無回答が４名みられた。

Ⅲ．胃瘻造設時について

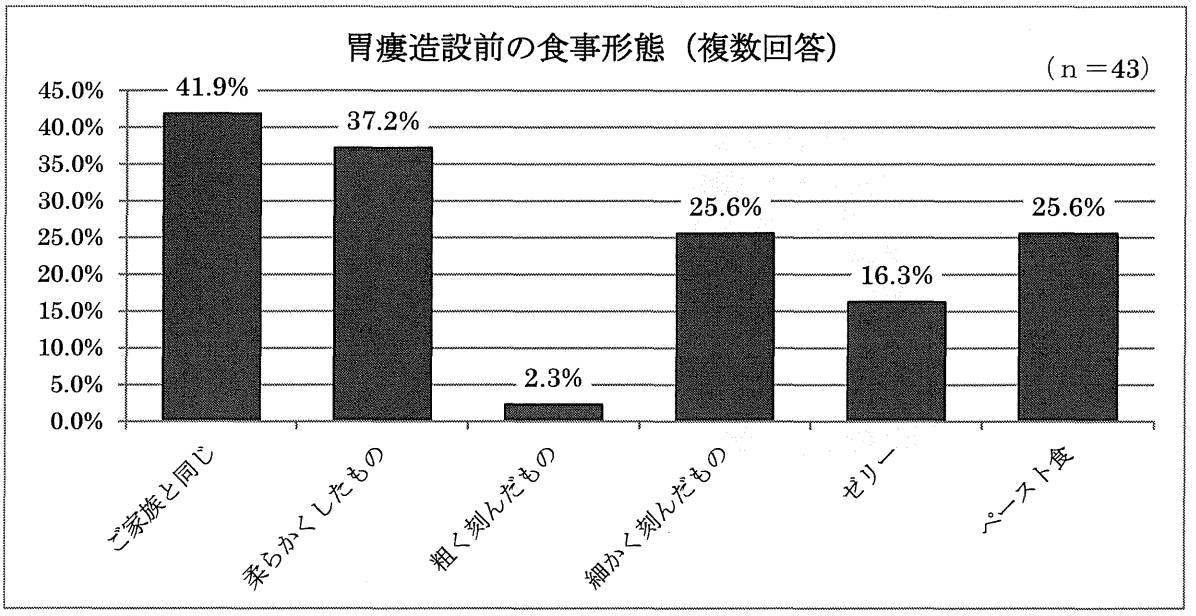
① 胃瘻造設前

ａ．造設前の介護環境



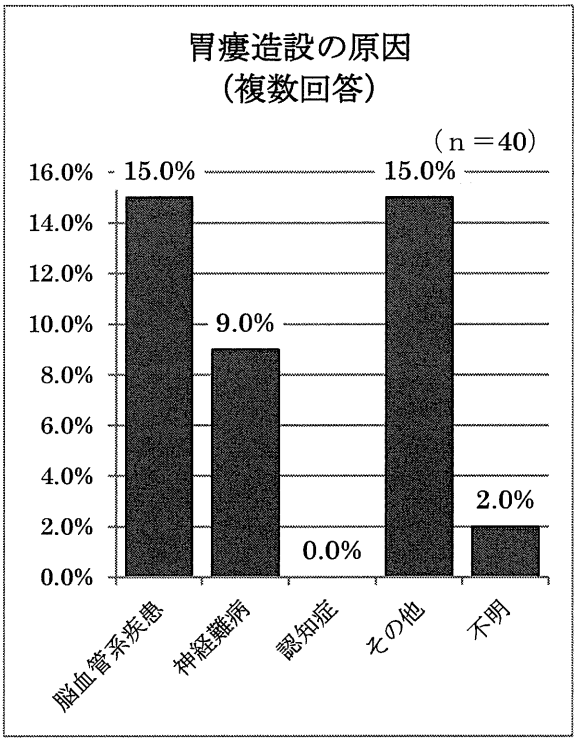
胃瘻造設前の介護環境は、自宅が最も多く33 名（75.0%）、療養病院が８名（18.2%）、その他が３名（6.8%）であった。特別養護老人ホーム、老人保健施設はいなかった。

ｂ．造設前の食事形態



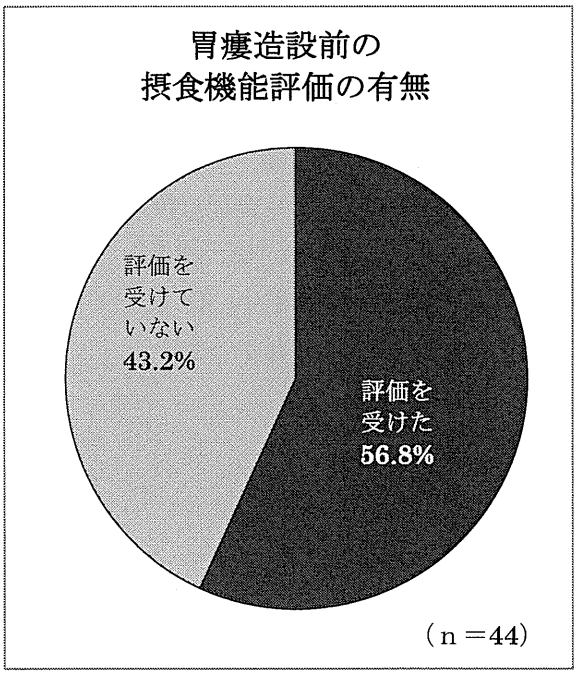
胃瘻造設前の食事形態は、ご家族と同じが最も多く 18 名（41.9%）、次いで柔らかくしたものが 16 名（37.2%）であった。粗く刻んだものが１名（2.3%）、細かく刻んだものが 11 名（25.6%）、ゼリーが７名（16.3%）、ペースト食が 11 名（25.6%）であった。無回答が１名みられた。

c．胃瘻造設の原因



胃瘻造設の原因は、脳血管系疾患が 15 名（15.0%）と多く、神経難病が９名（9.0%）、その他が 15 名（15.0%）、不明が２名（2.0%）であった。認知症と回答した者はいなかった。無回答が４名みられた。

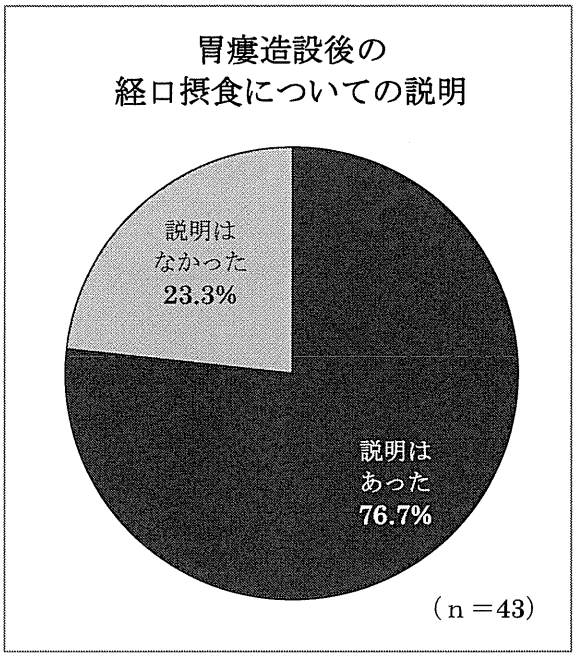
d．胃瘻造設前の摂食機能評価の有無



胃瘻造設前の摂食機能評価は、受けた者が 25 名（56.8%）と過半数であり、受けていない者が 19 名（43.2%）であった。

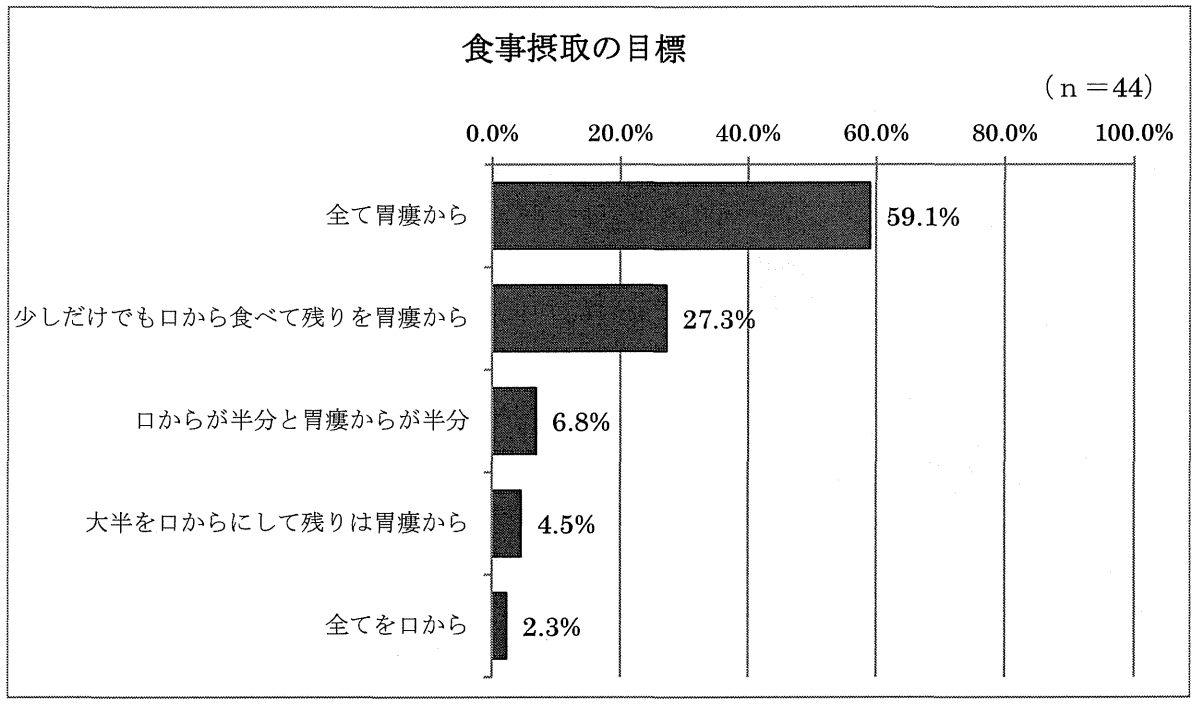
② 胃瘻造設後

a．口から食事摂取の可能性についての説明



口から食事摂取の可能性について、説明はあった者が 33 名（76.7%）と多く、説明はなかった者が 10 名（23.3%）であった。無回答が１名みられた。

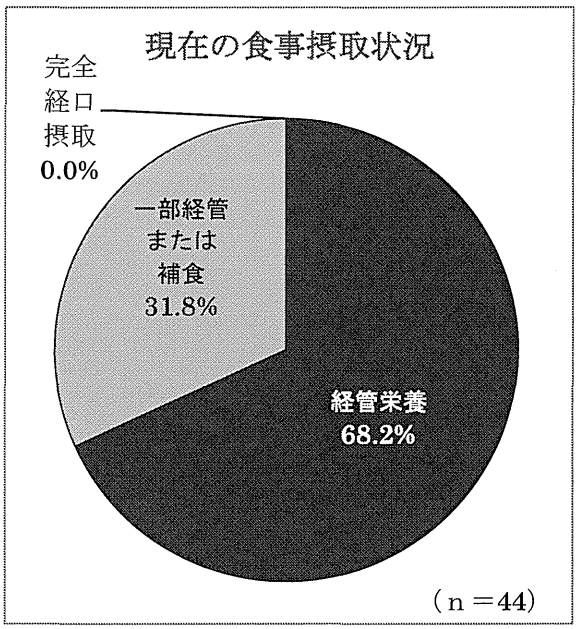
b．口から食事摂取の目標についての考え



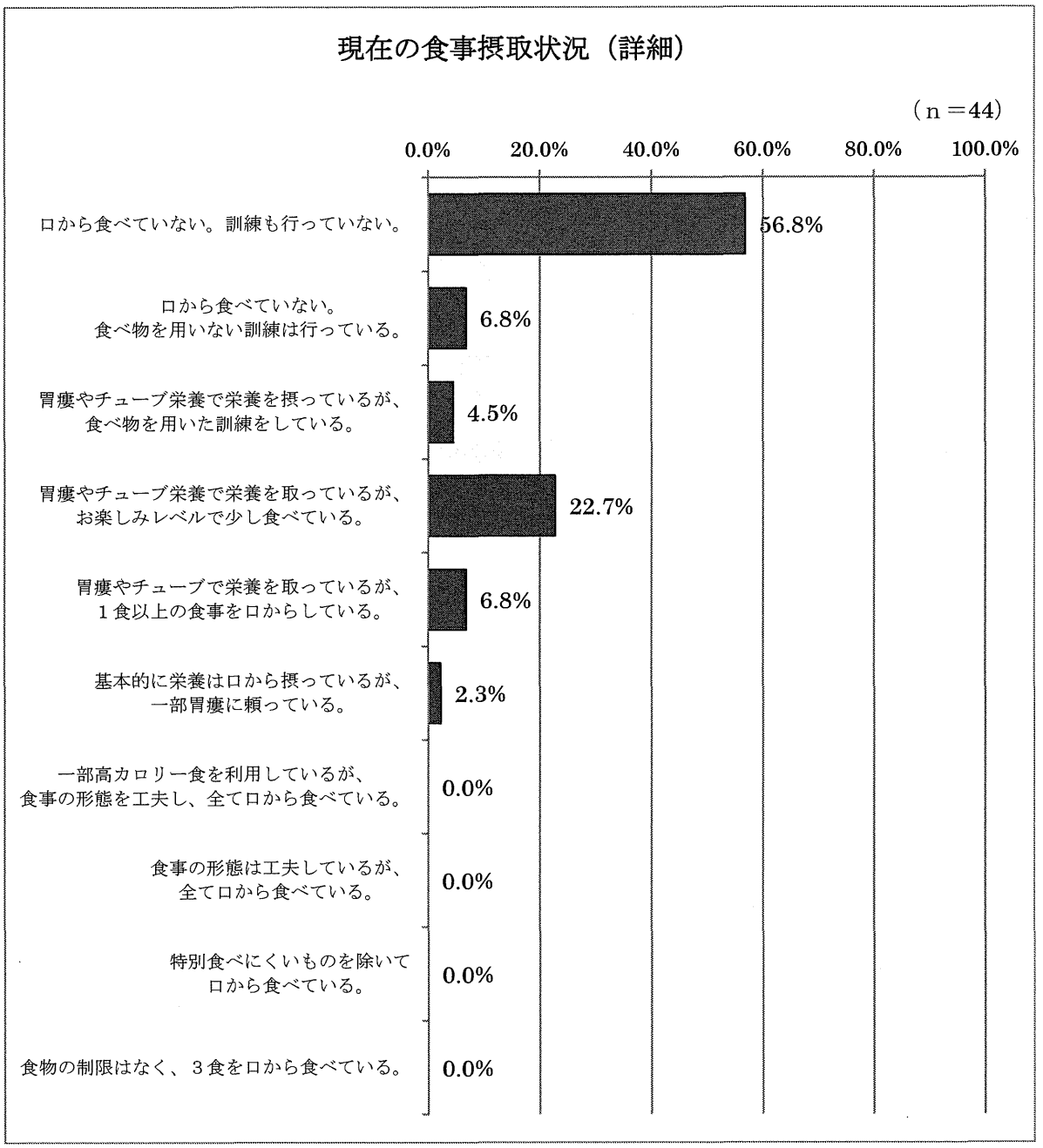
口から食事摂取の目標についての考えは、すべて胃瘻からが26名(59.1%)と最も多く、少しだけでも口から食べて残りを胃瘻からが12名（27.3%）、口からが半分と胃瘻からが半分が３名（6.8%）、大半を口からにして残りは胃瘻からが２名（4.5%）、全てを口からが１名（2.3%）であった。

Ⅳ．胃瘻造設後の生活について

① 現在の食事摂取状況



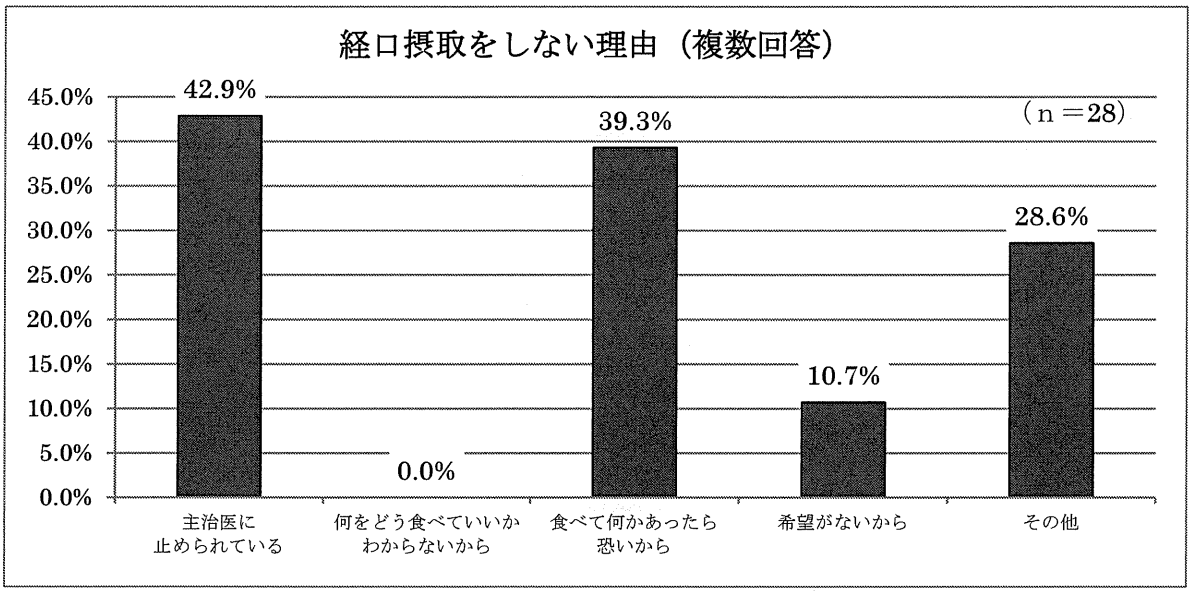
現在の食事摂取状況について、段階１～３を「経管栄養」、４～７を「一部経管または補色あり」、８～11 を「完全経口摂取」に分類した。経管栄養は30名（68.2%）と多く、一部経管または補食ありが14名（31.8%）であり、完全経口摂取はいなかった。



現在の食事摂取状況の詳細は、1「口から食べていない。訓練も行っていない。」が25名（56.8%）と最も多かった。2「口から食べていない。食べ物を用いない訓練は行っている。」が3名（6.8%）、3「胃瘻やチューブ栄養で栄養を摂っているが、食べ物を用いた訓練をしている。」が2名（4.5%）、4「胃瘻やチューブ栄養で栄養を摂っているが、お楽しみレベルで少し食べている。」が10名（22.7%）、5「胃瘻やチューブ栄養で栄養を摂っているが、1食以上の食事を口からしている。」が3名（6.8%）、6「基本的に栄養は口から摂っているが、一部胃瘻に頼っている。」が1名（2.3%）であった。7～10までの者はいなかった。

② 現在の食事摂取状況で、「１」または「２」と回答した者 28 名の理由について

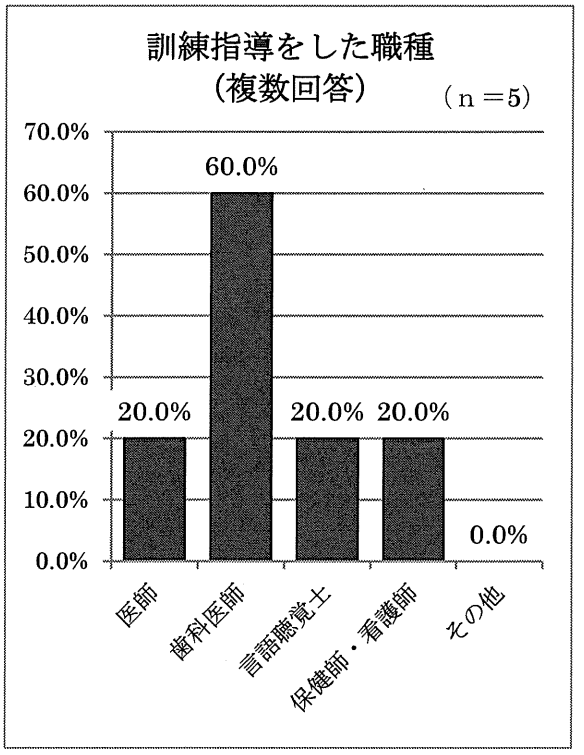
ａ．食べない理由



食べない理由は、主治医に止められているが 12 名（42.9%）と多く、次いで食べて何かあったら恐いからが 11 名(39.3%)であった。希望がないからが３名（10.7%）、その他が８名（28.6%）であった。何をどう食べていいかわからないから、はいなかった。

③ 現在の食事摂取状況で、「２」または「３」と回答した者５名の理由について

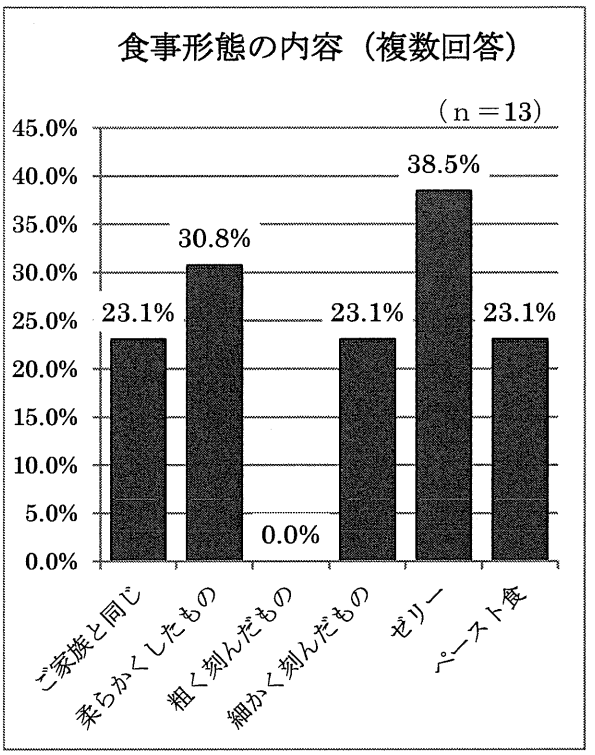
ａ．訓練指導をした職種



訓練指導をした職種は、医師が１名（20.0%）、歯科医師が３名（60.0%）と最も多く、言語聴覚士が１名（20.0%）、保健師・看護師が１名（20.0%）であった。

④ 現在の食事摂取状況で、「４」～「１１」と回答した13名について

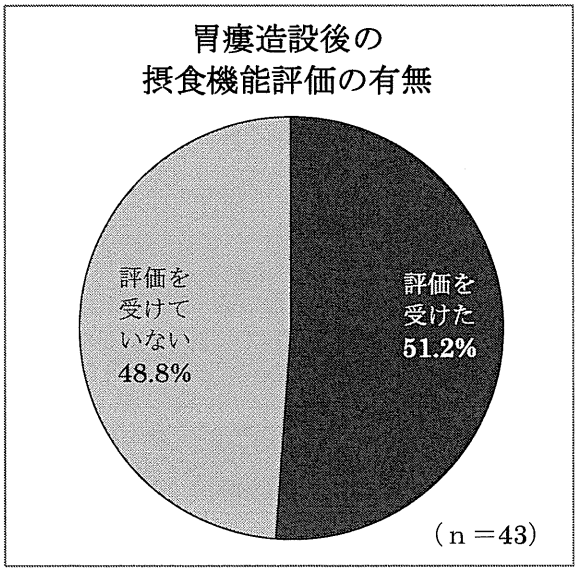
ａ．食事内容



食事形態の内容は、ご家族と同じが３名（23.1%）、柔らかくしたものが４名（30.8%）、細かく刻んだものが３名（23.1%）、ゼリーが最も多く５名（38.5%）、ペースト食が３名（23.1%）であった。粗く刻んだものはいなかった。無回答が１名みられた。

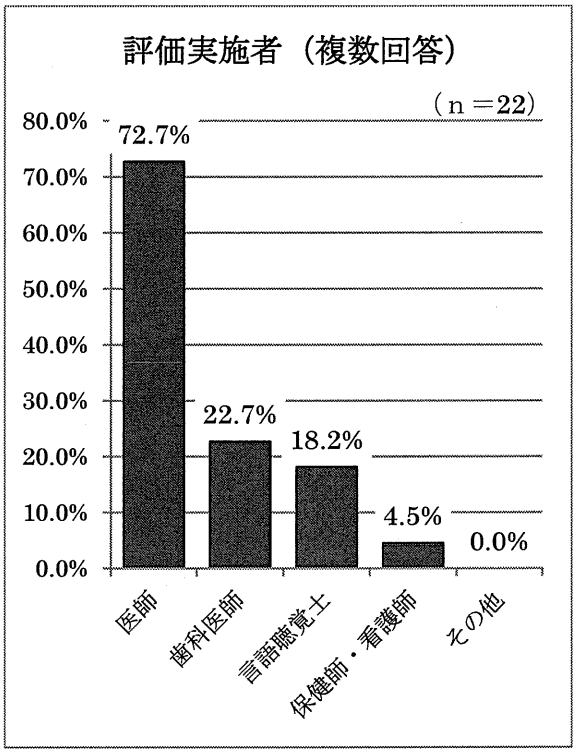
⑤ 胃瘻造設後の摂食機能評価について

ａ．摂食機能評価の有無



摂食機能評価の有無は、評価を受けたが22名（51.2%）と過半数を占め、受けていないが21名（48.8%）であった。無回答が１名みられた。

ｂ．摂食機能評価の実施者



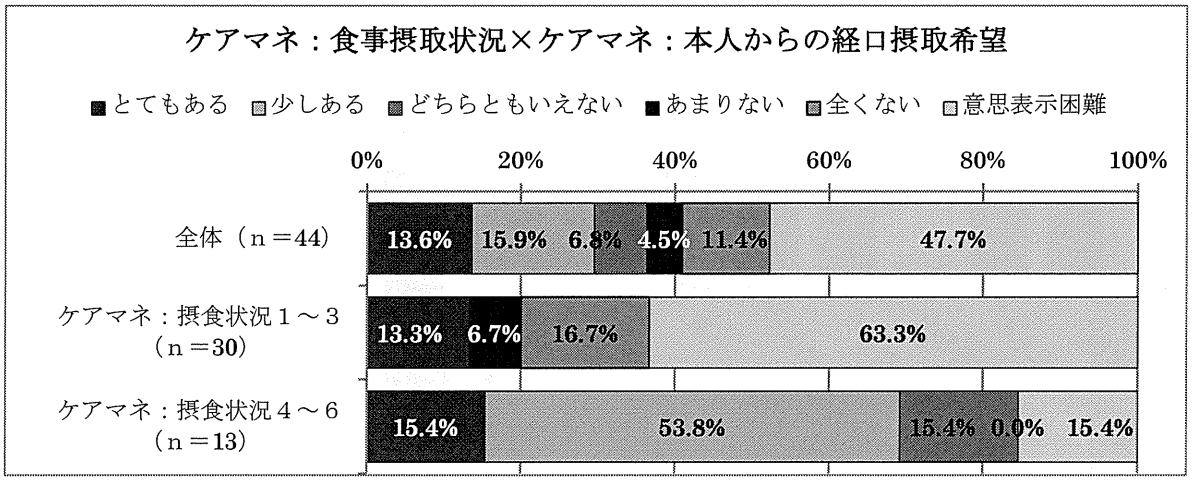
摂食機能評価を受けた 22 名における評価の実施者は、医師が圧倒的に多く 16 名（72.7%）、歯科医師が５名（22.7%）、言語聴覚士が４名（18.2%）、保健師・看護師が１名（4.5%）であった。その他はいなかった。無回答が１名みられた。

３．食事摂取状況と経口摂取希望の関係
～ ケアマネージャー用調査と本人・家族用調査との比較 ～

１）ケアマネージャーが評価した摂食状況

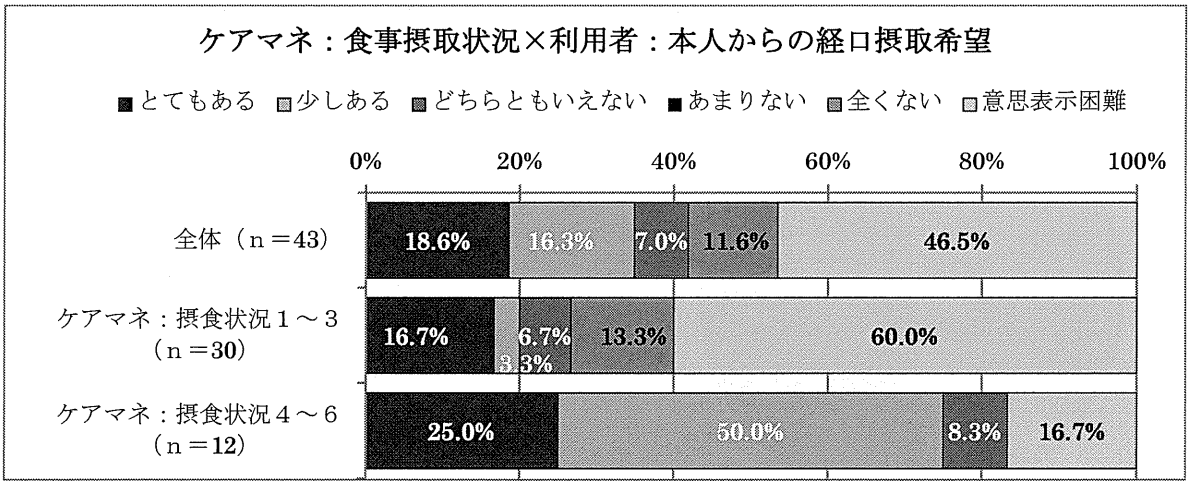
評価した摂食状況を、１～３と４～６の２群に分け、ケアマネが評価した本人の経口摂取の希望、家族からの経口摂取の希望、本人が訴えた経口摂取の希望、家族が訴えた経口摂取の希望について関連をみた。

ａ．食事摂取状況（ケアマネ調査）と本人の経口摂取の希望（ケアマネ調査）の関係



ケアマネージャーが評価した摂食状況と、ケアマネージャーが評価した本人の経口摂取に関する希望の関連をみた。半数弱の者が意思表示困難であった。意思表示が可能な者のうち、約半数は経口摂取を希望していた。
経口摂取を現在行っていない者（摂食状況１～３）のうち、約６割が意思表示困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取を希望していた者は30%弱であった。一方、一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）では、約16%が意思疎通困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取の希望の者が約80%いた。

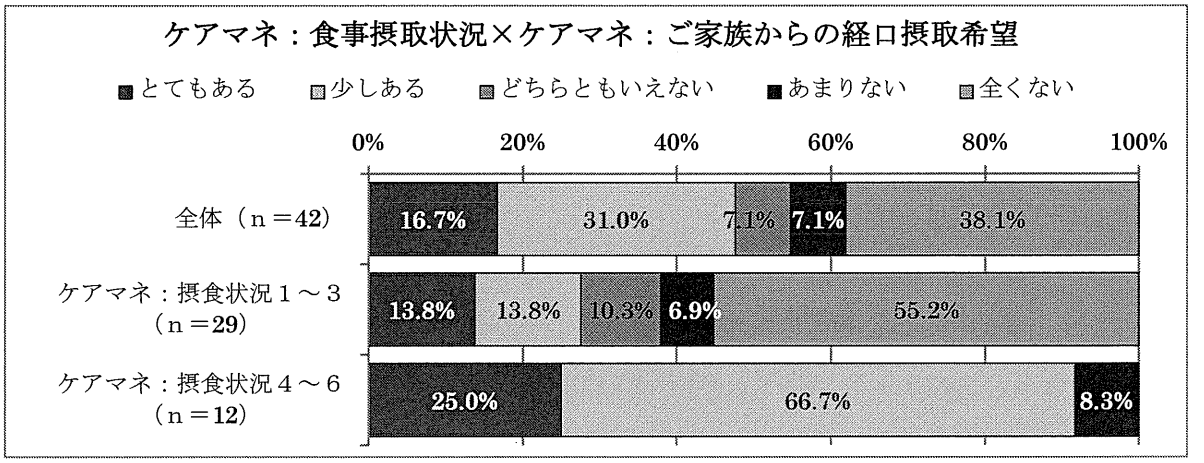
ｂ．食事摂取評価（ケアマネ調査）と本人の経口摂取希望（本人・家族調査）の関係



ケアマネージャーが評価した摂食状況と、利用者本人からの経口摂取に関する希望の関連をみた。半数弱の者が意思表示困難であった、意思表示が可能な者のうち、約65%は経口摂取を希望していた。

経口摂取を現在行っていない者（摂食状況１～３）のうち、６割が意思表示困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取を希望していた者は半数であった。一方、一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）では、約17%が意思疎通困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取の希望の者が約90%いた。

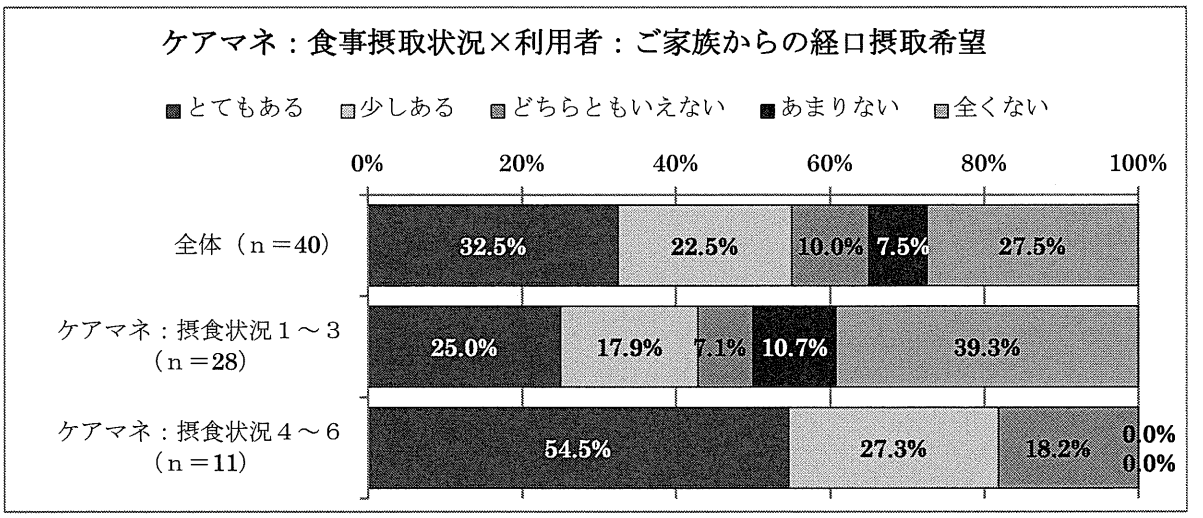
c．食事摂取状況（ケアマネ調査）と家族の経口摂取の希望（ケアマネ調査）の関係



ケアマネージャーが評価した摂食状況と、ケアマネージャーが評価した家族からの経口摂取に関する希望の関連をみた。全体で約６割の者が経口摂取を希望していた。

経口摂取を行っていない者（摂食状況１～３）の家族のうち、30%弱が経口摂取を希望しており、70%以上の家族は望んでいなかった。一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）の家族は、90%以上の者が経口摂取を希望していた

d．食事摂取評価（ケアマネ調査）と家族の経口摂取希望（本人・家族調査）の関係



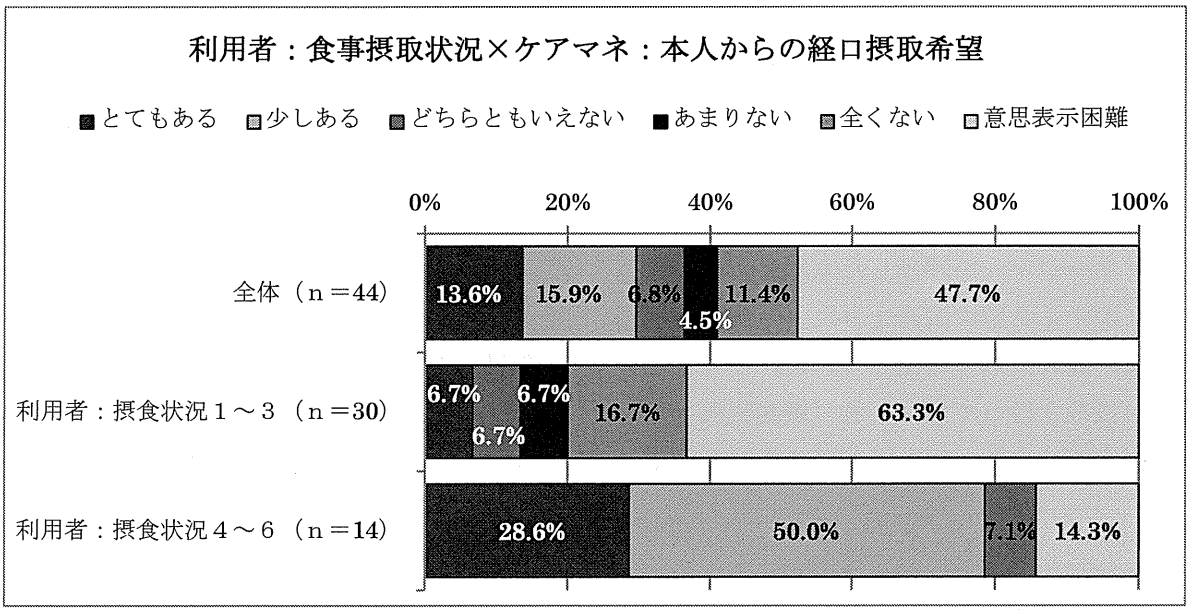
ケアマネージャーが評価した摂食状況と、利用者家族からの経口摂取に関する希望の関連をみた。全体では過半数の家族が経口摂取を望んでいた。

現在経口摂取をしていない者（摂食状況１～３）の家族のうち、43%が経口摂取を希望していた。一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）の家族のうち、82%が経口摂取を望んでいた。

２）利用者本人・家族が回答した摂食状況

利用者本人・家族が回答した摂食状況を、１～３と４～６の２群に分け、ケアマネが評価した本人の経口摂取の希望、家族からの経口摂取の希望、本人が訴えた経口摂取の希望、家族が訴えた経口摂取の希望について関連をみた。

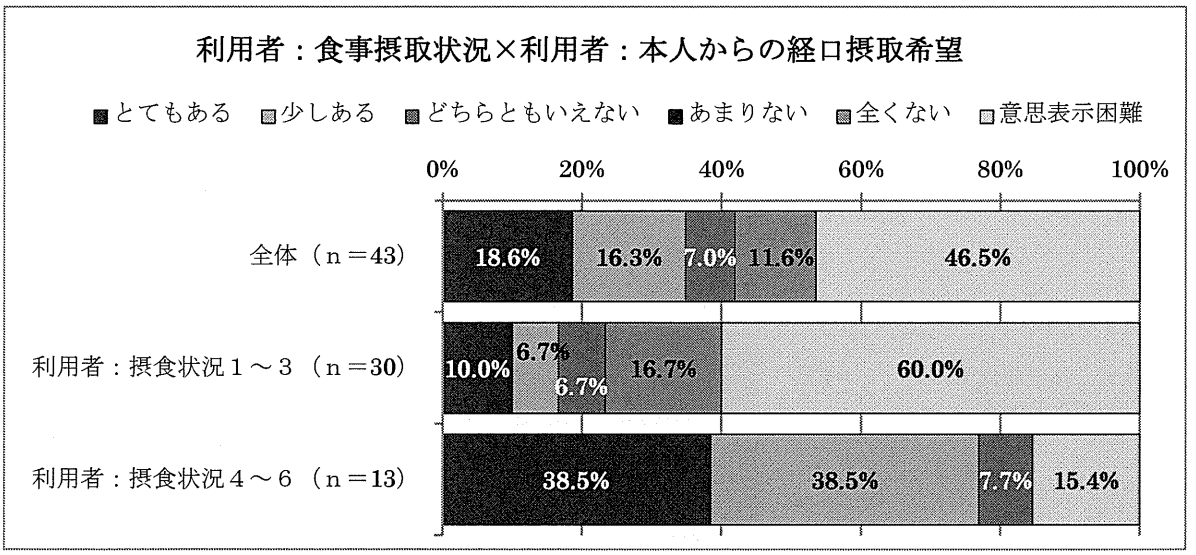
ａ．食事摂取評価（本人・家族調査）と本人の経口摂取希望（ケアマネ調査）の関係



利用者本人・家族が回答した摂食状況と、ケアマネージャーが評価した本人の経口摂取に関する希望の関連をみた。半数弱の者が意思表示困難であった。意思表示が可能な者のうち、約56%は経口摂取を希望していた。

経口摂取を現在行っていない者（摂食状況１～３）のうち、６割超が意思表示困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取を希望していた者は20%弱であった。一方、一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）では、約14%が意思疎通困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取の希望の者が90%以上いた。

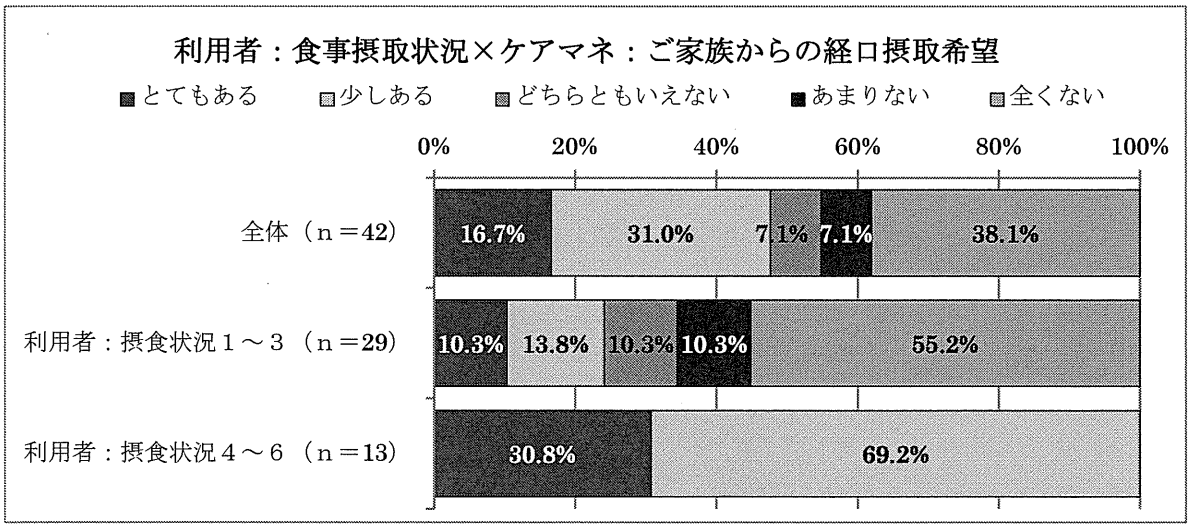
b．食事摂取評価（本人・家族調査）と本人の経口摂取希望（本人・家族調査）の関係



利用者本人・家族が回答した摂食状況と、利用者本人からの経口摂取に関する希望の関連をみた。半数弱の者が意思表示困難であった。意思表示が可能な者のうち、約65%は経口摂取を希望していた。

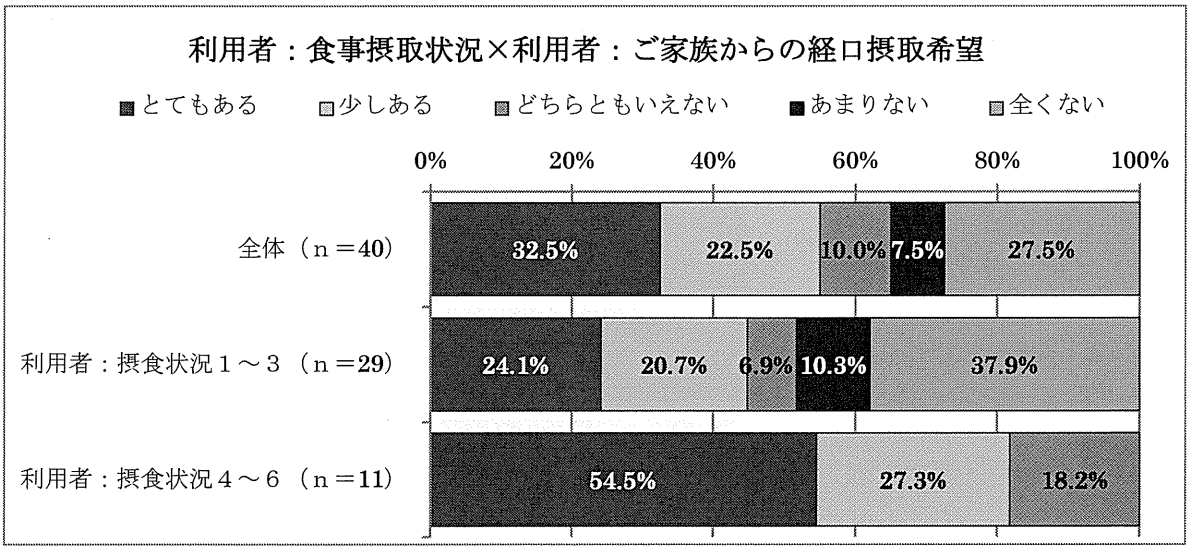
経口摂取を現在行っていない者（摂食状況１～３）のうち、６割が意思表示困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取を希望していた者は約42%であった。一方、一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）では、約15%が意思疎通困難であった。意思疎通が可能な者のうち、経口摂取の希望の者が90%以上いた。

c．食事摂取評価（本人・家族調査）と家族の経口摂取希望（ケアマネ調査）の関係



利用者本人・家族が回答した摂食状況と、ケアマネージャーが評価した家族からの経口摂取に関する希望の関連をみた。全体で６割超の者が経口摂取を希望していた。経口摂取を行っていない者（摂食状況１～３）の家族のうち、約24%が経口摂取を希望していたが、75%以上の家族は望んでいなかった。一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）の家族は、100%が経口摂取を希望していた。

d．食事摂取評価（本人・家族調査）と家族の経口摂取希望（本人・家族調査）の関係



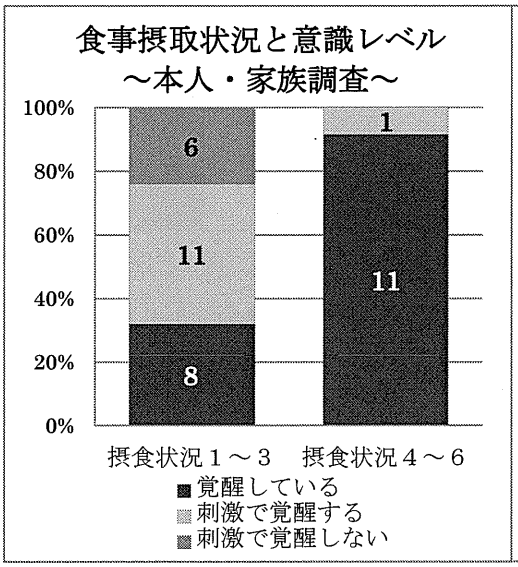
利用者本人・家族が回答した摂食状況と、利用者家族からの経口摂取に関する希望の関連をみた。全体では過半数の家族が経口摂取を望んでいた。

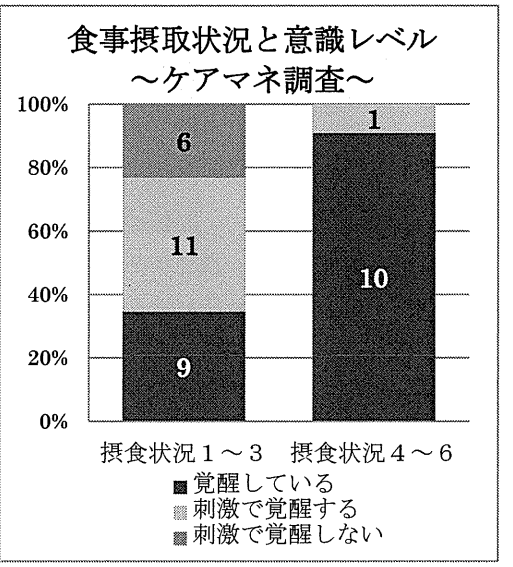
現在経口摂取をしていない者（摂食状況１～３）の家族のうち、約45%が経口摂取を希望していた。一部経口摂取をしている者（摂食状況４～６）の家族のうち、82%が経口摂取を望んでいた。

４．食事摂取状況と日常生活における体調変化の頻度
～ ケアマネージャー調査と本人・家族調査との比較 ～

ケアマネージャーが評価した食事摂取状況と、本人・家族が回答した食事摂取状況それぞれにおいて、ケアマネージャーが評価した日常生活における体調変化の頻度をみた。

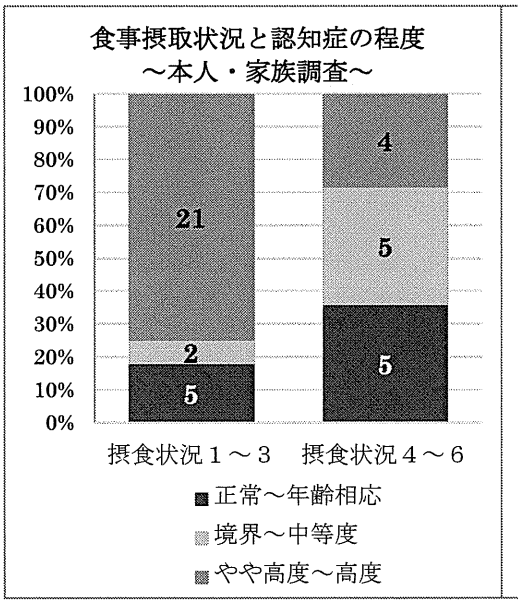
ａ．意識レベルとの関係

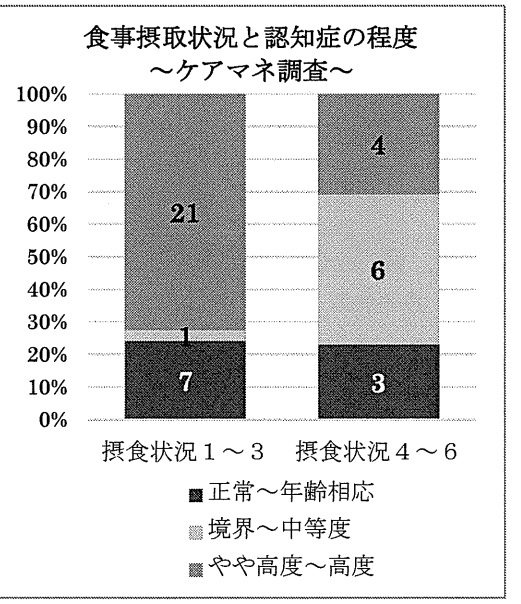




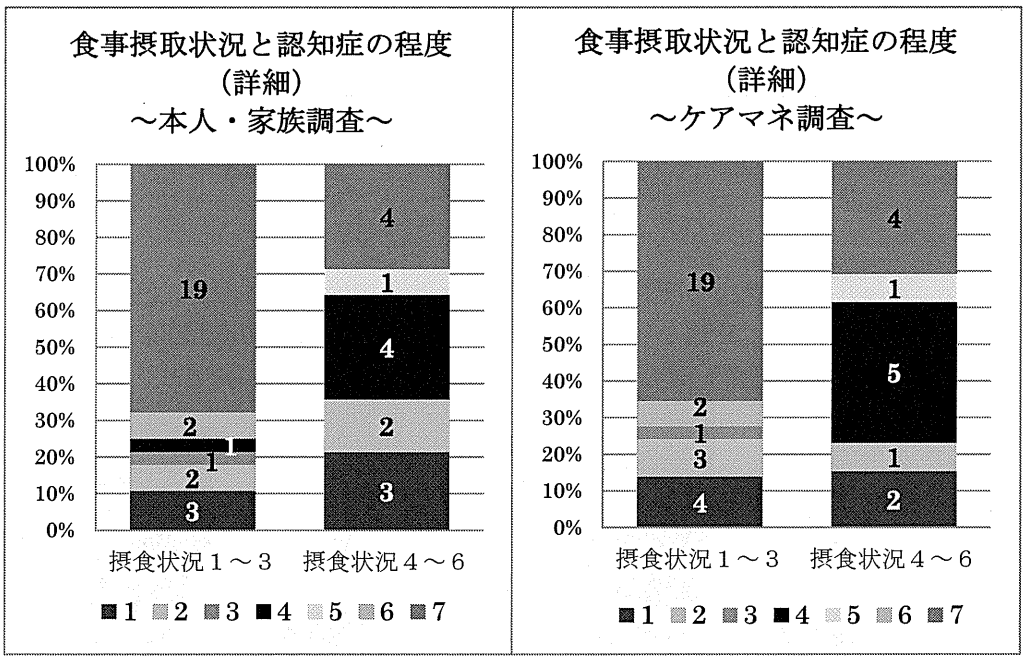
食事摂取状況と意識レベルとの関係について、覚醒している者で摂食状況４～６が約半数と多くみられた。刺激で覚醒する場合や、刺激で覚醒しない場合では、摂食状況１～３がほとんどを占めていた。

ｂ．認知症の程度との関係



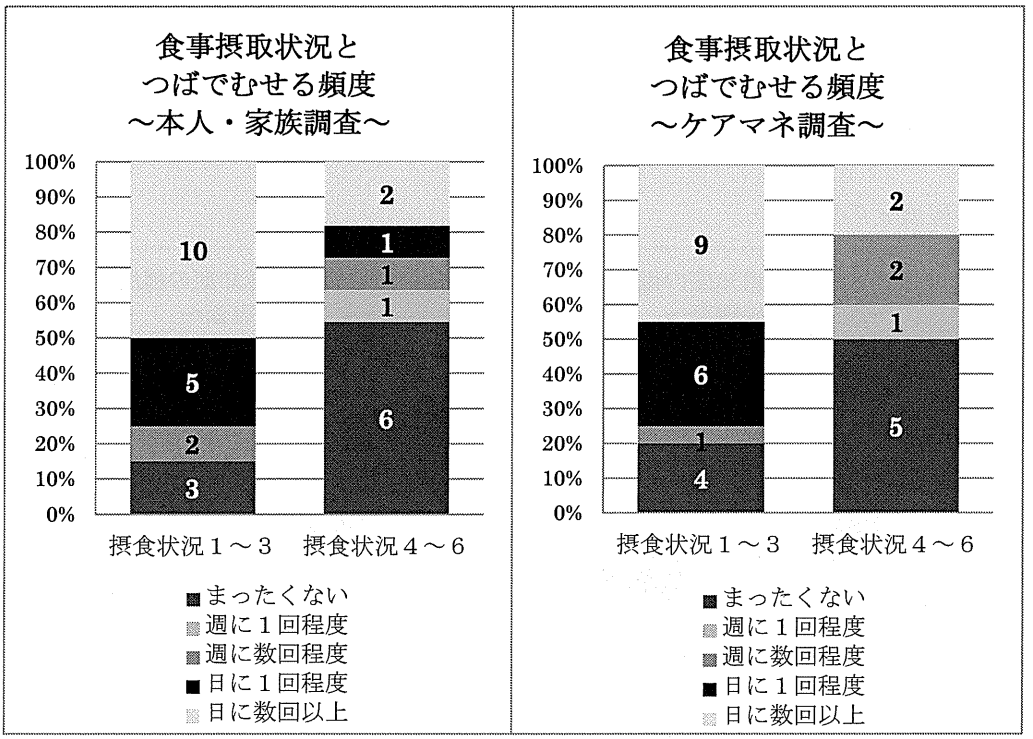


食事摂取状況と認知症の程度との関係において、認知レベルが正常～年齢相応の者と、やや高度～高度の者では摂食状況１～３が多い傾向であった。境界～中等度の者が、最も摂食状況４～６が多くみられた。



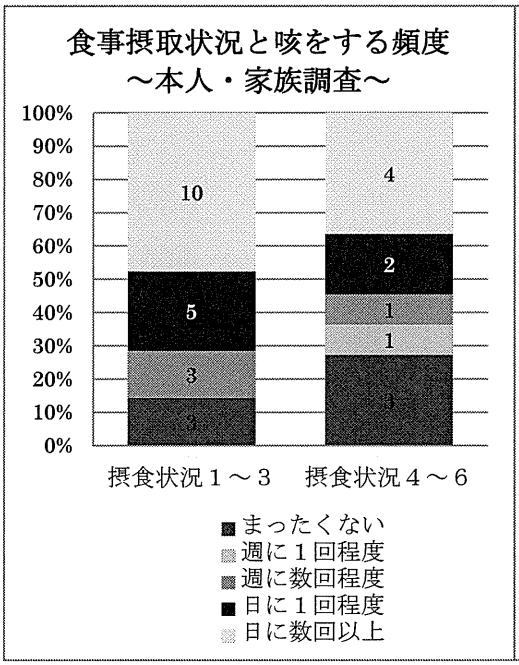
認知症の程度を詳細に分けた場合でも、同様の結果である。

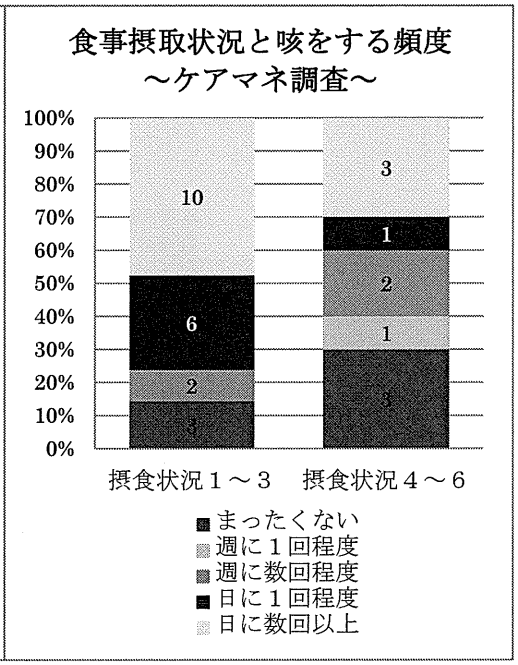
c．つばでむせる頻度との関係



食事摂取状況とつばでむせる頻度との関係において、むせる頻度が週に数回程度から数回以上になるにつれて、摂食状況１～３が多くなっていった。むせが全くない者でも、摂食状況１～３がみられたことは、むせの反射が惹起されなくなっている可能性もうかがわれる。

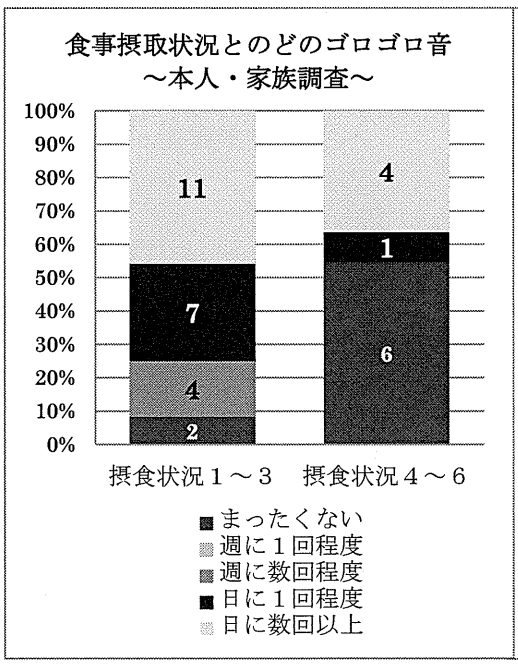
d．咳をする頻度との関係

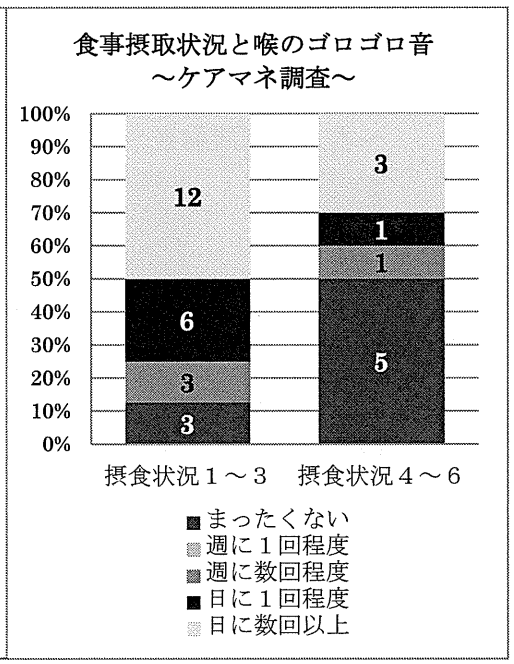




食事摂取状況と咳をする頻度との関係において、咳をする頻度が週に数回程度から日に数回以上になるにつれて、摂食状況１～３が多くなっていった。咳をまったくしない者においても摂食状況１～３が半数を占めたことは、咳反射が消失している可能性もある。

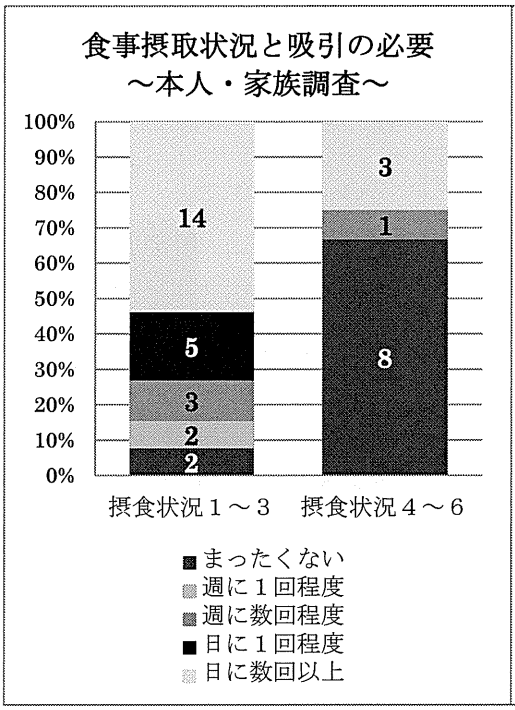
e．のどのゴロゴロ音との関係

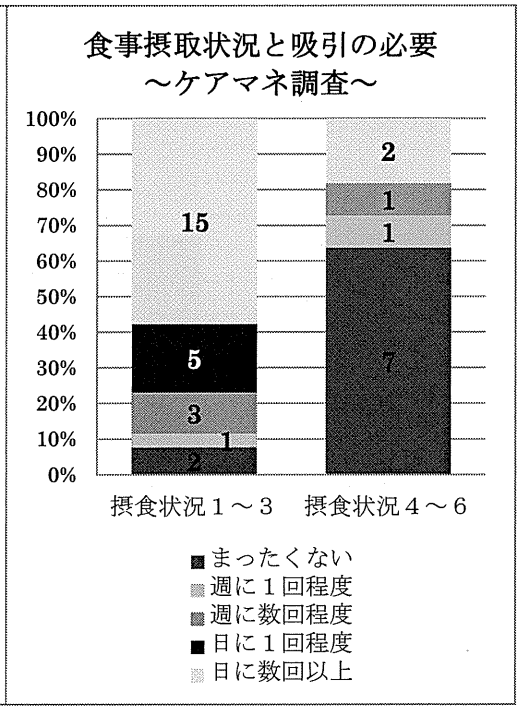




食事摂取状況とのどのゴロゴロ音との関係において、のどのゴロゴロ音が週に数回程度以上になると、摂食状況１～３がほとんどを占めた。また、ゴロゴロ音がまったくない者においても摂食状況１～３が２～３割を占めたことは、咽頭音だけでは嚥下障害をスクリーニングできないか、あるいは咽頭期の障害が原因ではない者が含まれている可能性も考えられる。

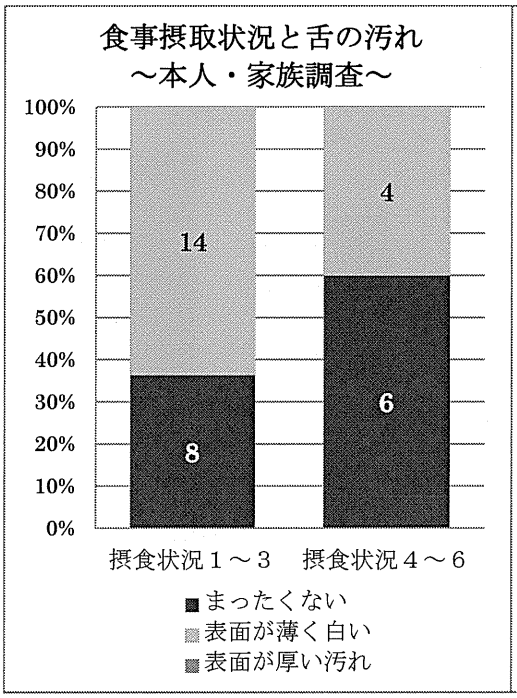
ｆ．吸引の必要との関係

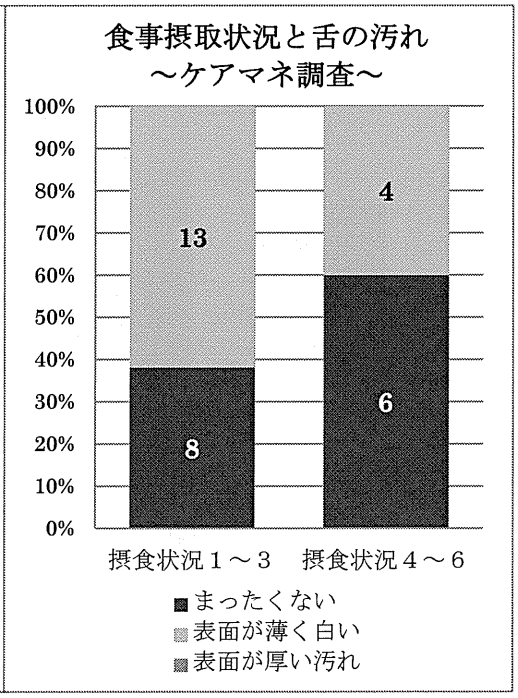




食事摂取状況と吸引の必要との関係において、吸引の必要が増加するに従い、摂食状況１～３が増加していた。

ｇ．舌の汚れとの関係





食事摂取状況と舌の汚れとの関係において、表面が厚い汚れの者はいなかったが、汚れがある場合、まったくない場合よりも摂食状況１～３の者が多く、約８割を占めた。経管栄養者では嚥下障害が重度であり舌機能の不全により舌苔が蓄積しやすいものと考えられる。